

AEDを使用した心肺蘇生法普及 500人講習会とは

【500人講習会の歴史】

1998（平成10）年、兵庫県立健康センター(当時)が主催した『心肺蘇生法普及 500人講習会』がその始まりです。兵庫県立健康センターは2003（平成15）年度をもって廃止となりましたが、それ以降は、健康スポーツ関連施設連絡協議会が引き継いで開催しております。

2004（平成16）年7月、医師法改正によりAEDの非医療従事者使用（いわゆる一般解禁）が認められ、その年から『AEDを使用した心肺蘇生法普及 500人講習会』と名称ならびに内容を改め、引き続き開催してまいりました。

2006（平成18）年の「のじぎく兵庫国体」開催年には、多数の国体ボランティアも一緒に参加した『1000人講習会』を開催しました。

その後も毎年1回開催し、広く市民の救命処置に対する意識向上と技術普及につながる一大イベントとして定着しています。

【500人講習会のネーミングについて】

1998年の初開催時、兵庫県立健康センターの体育館を会場としましたが、この会場が満員になるくらい頑張って参加者を集めようとスタッフ一同盛り上がり、体育館を一杯にしたら一体どれくらいの人数が入るのかと考えたら、答えは500人でした。語呂もいいので「500人講習会」と名付けることとし、以後もこの名称を使い続けています。

【500人講習会の内容】

講習会の内容は2部制です。

第1部は、「あなたは愛する人を救えますか」と題した講演・約40分です。

講師は、河村剛史（健康スポーツ関連施設連絡協議会会長・河村循環器病クリニック院長・医学博士）先生です。

第2部は、基本の心肺蘇生法とAEDを使用した実習を行います。

参加者が20～25のグループに分かれて、各グループに1名のAEDインストラクターが付き、各グループに1組の人形とAEDトレーナー（練習機）を使って指導します。90分程度。

本講習会の特徴の一つとして、人工呼吸の実習を必ず行います。

最近では人工呼吸不要論もありますが、やり方を知っておいて損をすることはありません。特に、子供の場合は人工呼吸が大変有効です。